

日本フィルハーモニー交響楽団 横浜定期演奏会

2024 横浜みなとみらいホール
2025 每月土曜日 17:00 開演

●秋季

第403回 2024年12月21日(土)

指揮:下野竜也

ソプラノ:富平安希子 メゾソプラノ:小泉詠子

テノール:糸賀修平 バリトン:宮本益光

合唱:東京音楽大学

残席
僅少

ニコライ:
歌劇『ウィンザーの陽気な女房たち』序曲
ベートーヴェン:交響曲第9番『合唱』

S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000
C席 ¥6,000 P席 合唱団 Ys席 ¥4,000

第404回 2025年1月25日(土)

指揮:藤岡幸夫

フルート:Cocomi

武満徹:組曲《波の盆》

モーツアルト:フルート協奏曲第2番

ルグラン:交響組曲《シェルブルの雨傘》

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000
C席 ¥5,000 P席 完売 Ys席 ¥2,000

●春季定期会員券(全5回)

11/27
発売!

S席 ¥29,000 A席 ¥23,000
B席 ¥20,000 C席 ¥18,000
P席 ¥15,800 Ys席(25歳以下) ¥9,000

定期会員券は最大38%OFF!

同月内の東京定期演奏会への振替が可能です!

[お申込み] 日本フィル・サービスセンター

☎ 03-5378-5911 (平日10~17時)

eチケット♪

<https://eticket.japanphil.or.jp>



●春季

第405回 2025年3月22日(土)

指揮:小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

ヴァイオリン:中野りな

チャイコフスキイ:ヴァイオリン協奏曲

リムスキー=コラーソフ:交響組曲《シェエラザード》

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000
C席 ¥5,000 P席 完売 Ys席 ¥2,000

第406回 2025年4月19日(土)

指揮・ピアノ:横山幸雄

ショパン:ポーランドの歌による幻想曲

ショパン:演奏会用ロンド《クラコヴィア》

ショパン:ピアノ協奏曲第1番

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000
C席 ¥5,000 P席 完売 Ys席 ¥2,000

第407回 2025年5月31日(土)

指揮:ガボール・タカーチ=ナジ

ピアノ:三浦謙司

シューベルト:交響曲第7番《未完成》

モーツアルト:ピアノ協奏曲第21番

コダーリ:組曲《ハーリ・ヤーノシュ》

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000
C席 ¥5,000 P席 完売 Ys席 ¥2,000

第408回 2025年6月14日(土)

指揮:小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

ヴァイオリン:千葉清加 [アシスタント・コンサートマスター]

モーツアルト:ヴァイオリン協奏曲第3番

マーラー:交響曲第1番《巨人》

S席 ¥9,000 A席 ¥7,500 B席 ¥6,500
C席 ¥5,500 P席 完売 Ys席 ¥2,000

第409回 2025年7月5日(土)

指揮:原田慶太樓 ピアノ:阪田知樹

ラフマニノフ:ヴォカリーズ(管弦楽版)

ラフマニノフ:パガニーニの主題による狂詩曲

ラフマニノフ:交響曲第2番

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000
C席 ¥5,000 P席 完売 Ys席 ¥2,000



日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第402回

横浜定期演奏会

402nd YOKOHAMA Subscription Concert

2024年11月23日(土・祝) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm November 23rd(Sat.), 2024, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催:公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援:神奈川新聞社、tvk

協力:横浜みなとみらいホール

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

独立行政法人日本芸術文化振興会



ピエタリ・インキネンよりメッセージ

(前首席指揮者 在任期間 2016～2023)

日本フィルとの仕事は、私にとって常にかけがえのないものです。この15年間、最初は首席客演指揮者として、その後は首席指揮者として共演を重ね、私たちが互いを理解し素晴らしい関係を築いていったことは、東京で、そしてツアード、聴衆の皆様こそが見つめてくださったことだと思います。最後の共演から1年半が経ちましたが、こうして再会できることをとても嬉しく思っています。この間、私はバイロイトの『指環』やベルリンの『タンホイザー』など、特にオペラ分野で経験を積み、日本フィルも音楽的な成長を遂げ、それら全てが今回のコンサートで発揮されることでしょう。

アルプス交響曲は、自然やその力を描写した最も色彩豊かな芸術作品のひとつです。オーケストレーションの真の傑作であり、言葉を使わずに物語を語る、演奏するにも聴くにも最も爽快な曲のひとつです。山での24時間が描かれ、山頂に辿り着き、再び夜が訪れる前に戻るまでの様子を語っています。

私はアルプスの山中で過ごすことが多いので、この作品には特に親しみを感じています。

※全文はHPへ



【横浜定期演奏会開演時間変更及びシーズン移行のお知らせ】

日本フィルは2026年に創立70周年を迎えます。70周年を契機として、日本のさまざまな慣習・制度に合わせ定期演奏会のシーズンを4月開始といたします。また横浜定期演奏会は開演時間を早め、終演後の時間をゆとりをもって楽しんでいただきたいと考えております。

- ① 2026-2027シーズンより東京・横浜定期演奏会を4月から翌年3月までといたします。
- ② 定期演奏会のシーズンスタート変更に伴い、2025年9月～2026年3月を【移行期間（プレ70周年期間）】とし、東京・横浜とも6回の定期演奏会を開催します。
- ③ 横浜定期演奏会の開演時間を17:00開演→15:00開演へ変更します。

横浜カルチュラルワ�ダーランドの一環として取り組む公演後の「アフターイベント」等の拡充についても併せて取り組んでまいります。

ついに実現するインキネンとの壮大な「アルペン・シンフォニー」！

前首席指揮者ピエタリ・インキネンが日本フィルの指揮台に還ってきます。しかもメインプログラムは新型コロナ・ウィルス蔓延の影響で実現出来なかったR.シュトラウスの『アルプス交響曲』。自身もアルプス近郊に居を構えるインキネンによる「本場もの」の音楽をお届けします。舞台外に配置されるホルン隊や数々の打楽器群をはじめとする大管弦楽による音の奔流にタップリと身をまかせてみてください。前半には名手神尾真由子と共にロシアの作曲家グラズノフが書いたロマンティックかつ技巧的なヴァイオリン協奏曲をお楽しみいただきます。ヴァイオリニストでもあり、名匠ザハール・ブロンの兄弟弟子のインキネンとの「対話」が聴きどころです。

Programs

グラズノフ：

ヴァイオリン協奏曲 イ短調 op.82 (約21分)

Alexander GLAZUNOV:

Concerto for Violin and Orchestra in A-minor, op.82

——休憩(15分) Intermission——

R.シュトラウス：

アルプス交響曲 TrV233 op.64 (約47分)

Richard STRAUSS: Eine Alpensinfonie, TrV233, op.64

●
指揮：ピエタリ・インキネン

Conductor: Pietari INKINEN

ヴァイオリン：神尾真由子

Violin: KAMIO Mayuko

コンサートマスター：田野倉雅秋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：菊地知也 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KIKUCHI Tomoya, JPO Solo Violoncello

©Mechthild Schneider



指揮:ピエタリ・インキネン

世界各地で活躍の場を広げ注目を集め インキネン。ザールブリュッケン・カイザースラウテルンドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者、韓国のKBS交響楽団音楽監督を務める。日本フィルハーモニー交響楽団首席指揮者を2016年より2023年まで務める。2019年4月には日本フィルと共にフィンランド、ドイツ、オーストリア、英国への13年ぶりのヨーロッパツアーを実現。この時、日本とフィンランドの国交100周年を記念し、ヘルシンキとインキネンの故郷コウヴォラも訪れた。

ワーグナーの音楽はインキネンの活動の中心的な存在であり、2020年夏のバイロイトでヴァレンティン・シュヴァルツ演出の『指環』全曲の新プロダクションを指揮すべく招待されたが、コロナ禍により中止となり、その後21年に「ワルキューレ」、23年に『指環』全曲を指揮。2023シーズンはベルリン・ドイツ・オペラにワーグナーの『タンホイザー』で初登場。これまで、コンセルトヘボウ管、ベルリン・シュターツカペレ、クリーヴランド響、イスラエル・フィル、バイエルン放響、ヘルシンキ・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管等と共演。2015年から2020年までプラハ交響楽団の首席指揮者、2008年から2016年までニュージーランド交響楽団の音楽監督を務め、現在は名誉指揮者の称号を持つ。

フィンランド出身。シベリウス音楽院でヨルマ・パヌラ、レイフ・セーゲルスタムらに、また、ケルン音楽院にてヴァイオリンをザハール・ブロンに師事。



← YouTube チャンネル
【2分でわかる大人のためのオーケストラ入門 Plus+】
X、Instagram では2分バージョン配信中！

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。
ご要望の方は主催受付までお申し出ください。

●お客様へのお願い●

演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

©Makoto Kamiya



ヴァイオリン:神尾真由子

4歳よりヴァイオリンをはじめる。2007年に第13回チャイコフスキーオンコールで優勝し、世界中の注目を浴びた。ニューヨーク・タイムズ紙でも「聴く者を魅了する若手演奏家」「輝くばかりの才能」と絶賛される。国内の主要オーケストラはもとより、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、バイエルン州立歌劇場管弦楽団、ロシア・ナショナル・フィルハーモニー交響楽団、ボストン・ポップス・オーケストラ、BBCフィルハーモニック、BBC交響楽団などと共に演奏。サン・モリッツ、コルマール、ヴェルビエなどの著名フェスティバル、ニューヨーク、ワシントン、サンクトペテルブルグ、モスクワ、フランクフルト、ミラノなどでリサイタルを行っている。2020年10月、RCA Red Sealレーベルより『JS バッハ: 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ』をリリースしている。これまで里屋智佳子、小栗まち絵、工藤千博、原田幸一郎、ドロシー・ディレイ、川崎雅夫、ザハール・ブロンの各氏に師事。楽器は宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス1731年製作「Rubinoff」を使用している。大阪府知事賞、京都府知事賞、第13回出光音楽賞、文化庁長官表彰、ホテルオークラ音楽賞はじめ数々の賞を受賞。東京音楽大学教授。



今日のコンサートの聞きどころは？

音楽評論家八木宏之さんの
楽しい解説をお楽しみください！

16時20分
より
大ホール内
にて♪

八木宏之(やぎ ひろゆき) ●1990年東京生まれ。青山学院大学文学部史学科芸術史コース卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程(修士:音楽学)およびソルボンヌ大学音楽専門職修士課程(Master 2 Professionnel Médiation de la Musique)修了。2021年春にWebメディア『FREUDE』を立ち上げ、その運営を行う株式会社メディアシオンを設立。クラシック音楽を中心、プログラムノートやライナーノーツを多数執筆するほか、コンサートのプレトークなども積極的に行なっている。

グラズノフ：ヴァイオリン協奏曲 イ短調 op.82

作曲家、指揮者、教育者として、19世紀後半から20世紀初頭にかけてロシア音楽界を牽引し、最後は革命後の祖国の体制を嫌いフランスで亡くなったアレクサンドル・グラズノフ(1865-1936)。彼は祖国のロシアのみならず、ヨーロッパ各地で国際的な名声を博し、その作品も各地で演奏されるという栄誉に浴した。1904年に作曲された『ヴァイオリン協奏曲』もその1つである。

ロシア出身の音楽家が作曲した『ヴァイオリン協奏曲』といえば、グラズノフの先達にあたるピョートル・チャイコフスキー(1840-93)が、1878年に作ったそれが有名だ。グラズノフとしては、そうした事情を念頭に、自らの『ヴァイオリン協奏曲』を作ろうとしたのだろう。そこで彼は、数々の『ヴァイオリン協奏曲』の伝統(チャイコフスキーのそれも例外ではない)に従い、曲全体を三楽章構成で作るもの、それぞれの楽章が切れ目なく演奏される、つまりは単一の楽章で全曲が作られているような構えにした。しかも第2楽章が実質的なカデンツァ(独奏者の腕前を存分に聞かせるための独奏部分)となっていることから、この楽章を第1楽章の延長、第3楽章をカデンツァが終わった後の締めの部分、と見なすこともできる。

なお第2楽章にあたるカデンツァは、グラズノフ自身によって作曲されており、重音奏法が駆使された超絶技巧の部分が続出する。しかもこの協奏曲が、当時のロシアを代表するヴァイオリニスト、レオポルト・アウアー(1845-1930)に捧げられたことを考えると、彼が持っていた高度のテクニックを意識した、とも考えられる。

ちなみにアウナーは、かつてチャイコフスキーから『ヴァイオリン協奏曲』を献呈されたにもかかわらず、演奏不可能であるとして初演の独奏を務めることを拒否。後にその考えを改めはしたもの、作品の様々な個所に手を加えて上演をおこなっていった。そうした因縁のヴァイオリニストに初演してもらうことを念頭に書かれたこの『ヴァイオリン協奏曲』自体、功成り名遂げたグラズノフ自身にとっても、一種の「勝負曲」ではなかったか。

楽器編成 独奏ヴァイオリン、ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ1、シンバル、トライアングル、鐘、ハープ1、弦楽5部。

R. シュトラウス：アルプス交響曲 TrV233 op.64

グラズノフが活躍したのと同じ19世紀末から20世紀初頭にかけ、交響詩やオペラの分野で革新的な話題作を次々と発表し、新時代のドイツ音楽の代表格と目されていたリヒャルト・シュトラウス(1864-1949)。そんなシュトラウスが1914年から15年にかけて作曲したのが、彼の得意とする大オーケストラを用いた多彩な響きを満載した『アルプス交響曲』だ。楽譜にはそれぞれの場面に従って、どのような場面が描かれているかを示す「標題」がつけられて

おり、それに従えば文字通り、アルプスでの一日を描写したものとなっている。

だがこの作品が生まれた過程を見ると、そこには単なるアルプスの絵巻物にはとどまらない内容が具わっていることがよく分かる。源流は、1900年に構想された交響詩『芸術家の悲劇』にまで遡れる。この曲は、アルプスの険しい山々に登ることに情熱を傾け、さらに道ならぬ恋に生き、最後は精神の闇に陥って自ら命を絶つという生涯を送った、スイス出身の画家カール・シュタウファー=ベルン(1857-91)の生涯から着想を得た。

なお1900年には、シュトラウスが尊敬していたフリードリヒ・ニーチェ(哲学者／1844-1900)も亡くなっている。そうした事情もあって、シュタウファー=ベルンの運命を表現した交響詩のアイディアは、やがてニーチェ的な世界観を宿す全4楽章構成の交響曲『反キリストあるいはアルプス交響曲』へと発展した(「反キリスト」の原義は「キリストの教えに背く者」だが、ここでは「キリスト教の世界観を離れた自然への畏敬の精神」を表している)。そして1915年に総譜が完成された時点で、『アルプス交響曲』という短いタイトルに落ち着いた。

というわけで、この作品はアルプスの壮大さや美しさだけではなく、その奥に浮かび上がる人生、さらには人間の生きるべき道をも映し出した、哲学的な要素をも含んでいる。また、音楽を通じてそのような世界観を聴衆に訴えかけるという点において、場面や情景の描写について目が向かいがちな「交響詩」というジャンル以上に、ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770-1827)が切り開いた、19世紀以降の「交響曲」の精神を汲んだものとなっている。さらにアルプスのテーマ、登山者のテーマが全曲を貫いて変容し、大きなクライマックスを築く様は、交響曲でお馴染みのソナタ形式の応用とも考えられる。

たしかに曲そのものは、「交響詩」の様に最初から最後まで切れ目なく続くが、日の出から登山の部分(夜/日の出/登山/森に入る/小川に沿って歩む/滝/幻影/花咲く草原/山の牧場/道に迷う/氷河/危険な瞬間)を第1楽章、山頂の部分(山頂にて/景観/霧がわく/太陽がかけり始める/エレジー/嵐の前の静けさ)を第2楽章、嵐と下山の部分(雷雨と嵐、下山)を第3楽章、日没の部分(日没/終結/夜)を第4楽章と捉えることも可能だろう[()内の太文字はスコアに記された説明]。

こうしてベートーヴェンの交響曲が単なる音楽作品にとどまらず、人間の生き方を映し出す宇宙となったのと同様、シュトラウスもまたそこに、アルプスの一日になぞらえた人間の一生を描こうとした。折しもこの作品が作られたのは、第一次世界大戦の最中。ヨーロッパが壊滅的な破滅に向かおうとする状況の中にあって、それはもしかすると交響曲が人間存在の理想や理念を描くことのできた、最後の光芒の瞬間だったのかもしれない。

楽器編成 フルート4(ピッコロ持替2)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン持替1)、E♭管クラリネット1、クラリネット2、バス・クラリネット1(C管クラリネット持替)、ヘッケルフォーン1、ファゴット4(コントラ・ファゴット持替1)、ホルン8(テナーテューバ持替4)、トランペット4、トロンボーン3、バス・トロンボーン1、テューバ2、ティンパニ2、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、タムタム、ウインドマシーン、サンダーマシーン、グロッケンシュピール、カウベル、ハープ2、チェレスタ1、オルガン1、弦楽5部。
バンダ:ホルン4、トランペット2、トロンボーン1。



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話~ by 小宮正安

「アルプス」の変容

ドイツ語では、“Alpen”と書く。「アルペン」、つまりアルプスのこと。ちなみにドイツ語には“Alpträum”という言葉もあり、“Traum”とは「夢」という意味だから、アルプスの美しい自然にまつわる、とても美しい夢のように思ってしまう。

ところが、“Alpträum”的意味は何と…、「悪夢」なのだ。そもそも“Alp”(アルプ)自体、人間に悪さをする恐ろしげな靈あるいは精であり、アルプスもまた、そのようなアルプに支配された魔の山である、というイメージが長年にわたって定着していた。

たしかにそうかもしれない。峠々たる岩山は人間を寄せ付けず、そこに分け入れば命を落としかねない恐るべき場所。少なくとも、科学や技術の発達していなかった時代には、そう信じられていた。

そんな流れが急速に変わり始めたのが、18世紀半ば以降。近代科学が徐々に生まれるようになると、迷信や因習に基づいた世界の捉え方が徐々に後退し、人間が自らの知恵と力で世界を築いていく姿勢が重視されてゆく。こうした中で、アルプスには「アルプ」など住んでおらず、相応しい登山道具と登山技術を具えれば、アルプスを制覇することも可能と考えられるようになった。言葉を換えれば、人間が自然を制覇する、ということに他ならない。

だがそうした考え方の行き過ぎが、19世紀後半になると問題になる。つまり、ヨーロッパのそこかしこで環境破壊が進み、都市部の人々が公害に苦しむようになると、彼らは都会を逃れるかのように、逆に豊かな自然を求めていった。とりわけアルプスは注目的となり、多くの都会人が保養にアルプスを訪れるようになってゆく。今やアルプスは、単に征服される対象ではなく、人々に活力と希望を与える癒しの地と化したのである。

文字通りそんな時代を映し出すのが、1880年に発表された「ハイジ」。そして音楽においては、『アルプス交響曲』。しかも『アルプス交響曲』では、都会生活の多忙さの中でつい見落とされがちな、「人はどう生きるべきか」という深遠な問いかかけが、アルプスの一日を通じてなされてゆく。

ここに「アルプス」は大きく変容を遂げ、現在に至るアルプスの在り方が定着していった。



アルプスの名所の1つツェルマットに建てられたホテルの絵葉書。1912年頃。

Next YOKOHAMA

第403回 横浜定期演奏会

2024年12月21日(土) 17:00
横浜みなとみらいホール

指揮: 下野竜也

ソプラノ: 富平安希子 メゾソプラノ: 小泉詠子

テノール: 糸賀修平 バリトン: 宮本益光

合唱: 東京音楽大学

残席
僅少

ニコライ:

歌劇《ウィンザーの陽気な女房たち》序曲

ベートーヴェン:

交響曲第9番《合唱》二短調 op.125

S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000 C席 ¥6,000
P席 合唱団 Ys席 ¥4,000

※ Ys: 25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。



下野竜也



富平安希子



小泉詠子



糸賀修平



宮本益光

2024年
12/5
発売!

お得な春季セット券!
指揮 力一チュン・ウォン

[首席指揮者]

● S席セット ¥11,000 ● A席セット ¥9,000



© Angie Kremer

第409回 名曲コンサート

2025年3月1日(土) 14:00 開演

サントリーホール

ヴァイオリン: 小林美樹

伊福部昭: 日本組曲

チャイコフスキイ: ヴァイオリン協奏曲

ムソルグ斯基(ラヴェル編曲):

組曲《展覧会の絵》

第410回 名曲コンサート

2025年5月25日(日) 14:00 開演

サントリーホール

ヴァイオリン: 服部百音

シベリウス: ヴァイオリン協奏曲

マーラー: 交響曲第5番

Information

■ピエタリ・インキン指揮《クレルヴォ》CD発売
(2023年4月28日、29日 第749回東京定期演奏会ライブ)

【インキン×日本フィルの集大成】

日本フィルが創立指揮者・渡邊暁雄以来紡いだシベリウス演奏の伝統に、インキンと日本フィルは新たな光をあててきました。日本フィルが37年ぶりに挑んだンベリウスの超大作《クレルヴォ》。インキン×日本フィルの集大成、唯一無二の到達点です。

•JPCD-1038 •定価 3,300円(税込)

12/1発売!
(11/23、24会場先行販売 & インキンのサイン会実施)



■10月24日に広上淳一&日本フィル「オペラの旅」Vol.1《仮面舞踏会》の記者懇談会を行いました ※詳細はHPよりご覧ください。

2025年4月26日(土)、27日(日) 17:00 開演 サントリーホール



▶12月11日(水)発売

■「コバケン・ワールド Vol.39」出演者変更のお知らせ

2025年3月23日コバケン・ワールド Vol.39 に出演予定のピアニスト小林亜矢乃氏は、指先の治療中で回復にはまだ時間を要するため、降板することとなりました。当日のソリストには田部京子氏(ピアノ)が出演いたします。指揮者・プログラムに変更はございません。

コバケン・ワールド Vol.39 11月26日(火)発売

2025年3月23日(日) 14:00 開演 サントリーホール

指揮とお話:小林研一郎 [桂冠名誉指揮者] ピアノ:田部京子

モーツアルト:ピアノ協奏曲第20番 リムスキイ=コルサコフ:交響組曲《シェエラザード》

S ¥6,800 A ¥5,300 B ¥4,200 P ¥3,200 Gs ¥4,500 Ks ¥1,500

■「第24回相模原定期演奏会」出演者変更のお知らせ

12月8日(日)第24回相模原定期演奏会に出演予定のソリスト萩原麻未氏は、第2子妊娠に伴う体調不良のため降板することとなりました。当日のソリストには伊藤恵氏(ピアノ)が出演いたします。指揮者・プログラムに変更はございません。

第24回相模原定期演奏会

2024年12月8日(日) 14:00 開演 相模女子大学グリーンホール

指揮:下野竜也 ピアノ:伊藤恵

ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第5番《皇帝》／交響曲第6番《田園》 他

S ¥6,500 A ¥5,500

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。 | 10月の寄付者 前田国男様、匿名3名
心より御礼申し上げます。 | 敬称略:五十音順

横浜定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食:下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(4名様まで)※除外日および対象外メニューあり
オールディタイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/日本料理「大志満」
中国料理「スーツアンレストラン陳」

※会計時に横浜定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。
※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですのでご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

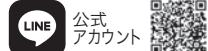
公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

(1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊暁雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッホラン
- 客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ

- 首席指揮者/カーチュン・ウォン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)/広上淳一

公式X(元Twitter)
@Japanphil



理事長(代表理事)	名誉顧問	団友
平井俊邦	熊谷直彦	青柳哲夫
副理事長(代表理事)	島田晴雄	青山均
五味康昌	田邊稔	赤堀泰江
専務理事(代表理事)	コミュニケーション・ディレクター	新井豊治
福井英次	マイケル・スペンサー	石井啓治
常務理事(代表理事)	マネジメント・スタッフ	伊藤恒男
後藤朋俊	浅見浩司	伊波睦
理事	磯部一史	遠藤功
石井啓一郎	江原陽子	遠藤剛史
○伊藤雄太	及川ひろか	大石修
○笠間勇登	小川紗智子	大川内弘
バス・トロンボーン	荻島里帆	観美知子
中根幹太	賀澤美和	金本順子
テューバ	柏熊由紀子	蒲谷隆行
柳生和大	小須田萌	川口と宏
ティンバニ	佐々木文雄	菊田秋一
○エリック・バケラ	澤田智夫	岸良開城
○池田健太	篠崎めぐみ	吉川利幸
バーカッション	杉山綾子	木村正伸
大河原涉	杉山まどか	小林俊夫
評議員会長	高橋勇人	小山清
加藤丈夫	田中正彦	斎藤千種
評議員	槌谷祐子	佐々木裕司
青井浩	中村沙緒里	佐藤玲子
安孫子正	西田大輔	菅原光
荒賀康一郎	西田真菜	高木洋
星野究	長谷川珠子	高倉理美
チーフステージマネージャー	藤田千明	田沢烈
阿部絢子	藤村益江	立川和男
クラリネット	別府一樹	堂坂俊子
○伊藤寛隆	内川清雄	富樫尚代
○楠木慶	大塚宣夫	豊田尚生
照沼夢輝	海堀周造	中川二朗
長橋健太	森田大翔	永田健一
堂面宏起	ファゴット	中務幸彦
○田吉佑久子	○鈴木秀介	奈切敏郎
佐藤駿一郎	大内秀介	橋本洋
○鈴木一志	中川日出鷹	畠井紀代子
星野究	ホルン	新井康允
佐藤駿一郎	☆丸山勉	伊波睦
○鈴木秀介	○信末頼才	永島義郎
宇田紀夫	伊藤舜	南部洋一
鈴村優介	中溝とも子	
谷崎大起	宇田紀夫	
島田精一	原川翔太郎	
津田義久	村中美菜	
西澤豊		
野間省伸		
福満一夫		
村上典吏子		
山口多賀幸		

(2024年11月1日現在)